



INTERNATIONAL MONETARY FUND FACTSHEET

特別引出権 (SDR)

特別引出権 (SDR) は、加盟国の準備資産を補完する手段として、IMF が 1969 年に創設した国際準備資産です。これまでに 2,042 億 SDR (2,910 億ドル相当) が加盟国に配分されていますが、この額には世界金融危機後の 2009 年に配分された 1,826 億 SDR が含まれます。SDR の価値は、5 通貨 (米ドル、ユーロ、中国人民元、日本円、英国ポンド) で構成されたバスケットに基づいて決められます。

SDR の役割

SDR は 1969 年に、ブレトンウッズ体制における固定為替相場制の枠組みの中で補完的な国際準備資産として IMF によって創設されました。ブレトンウッズ体制は 1973 年に崩壊し、主要通貨が変動相場制に移行することで、国際準備資産としての SDR への依存度は低下しました。しかし、SDR 配分は流動性を供給し、加盟国の外貨準備高を補完する上で一役を担えます。例えば、世界金融危機の最中であった 2009 年には合計で 1,826 億 SDR が IMF 加盟国に配分されました。

IMF など一部の国際機関では SDR が会計単位として使われています。

SDR は通貨ではなく、また IMF に対する請求権でもありません。むしろ、SDR は IMF 加盟国が自由利用可能通貨を潜在的に請求する権利です。SDR は自由利用可能通貨と交換できるのです。

通貨バスケットが SDR の価値を決める

SDR の価値は当初、純金 0.888671 グラムに相当し、また当時の 1 米ドルと等価値であると決められていました。ブレトンウッズ体制の崩壊に伴い、SDR は通貨バスケットとして再定義されました。

SDR を構成する通貨バスケットは、世界の貿易制度と金融制度における通貨の相対的な重要性を反映するために、5 年ごとに IMF 理事会によって見直しが行われます。もし妥当だと判断される場合には、この見直しは 5 年を待たずに行われます。見直しの対象には、SDR の価値を決める方法の主要要素が含まれます。例えば、SDR バスケット通貨を選ぶ上で使われる基準と指標、SDR バスケットを構成する各通貨の量 (単位数) を決めるために使われる当初の通貨の構成比などです。これら通貨の量は 5 年間の SDR 価値評価期間を通じて固定されますが、バスケット構成通貨間の為替相場が変動するのに応じて、各通貨の実際の構成比は変動します。SDR の価値は市場為替レートに基づいて、日毎に決定されます。また、見直しは SDR 金利バスケットを構成する金融商品の適切さを評価する機会としても使われています。

SDR の価値

SDR の米ドルでの価値は、ロンドン時間で正午に見られる直物為替相場に基づいて、日毎に決定され、IMF ホームページに掲載されます。

通貨	2015年の見直しで決定された比重	2016年10月1日からの5年間における通貨単位数の固定値
米ドル	41.73	0.58252
ユーロ	30.93	0.38671
中国人民元	8.33	1.0174
日本円	8.09	11.900
英国ポンド	10.92	0.085946

2015 年 11 月に終了した前回の見直しでは、中国人民元が SDR バスケット入りの条件を満たしたとの決定が IMF 理事会によって下されました。この決定後、米ドル、ユーロ、日本円、英国ポンドに加えて、中国人民元が SDR バスケットを構成することになり、中国人民元の SDR バスケット採用が 2016 年 10 月 1 日に発効しました。

SDR バスケットへの採用

輸出基準

国際通貨基金 (IMF) 加盟国か、IMF 加盟国を含む通貨同盟が発行する通貨であり、当該通貨を発行する国または通貨同盟の輸出額が世界で 5 本の指に入る大きさであること。

自由利用可能通貨であるという IMF の判断

国際取引の支払いで広く使われており、主要な取引市場で広く売買されている通貨であること。

2015 年の SDR 構成通貨見直し

SDR の価値と SDR 金利バスケットの構成

中国人民元の SDR 採用が 2016 年 10 月 1 日に発効し、中国国債の 3 か月物のベンチマーク利回りが SDR 金利バスケットに組み入れられることになりました。

人民元を構成通貨として採用することで、SDR バスケットは多様性を高めるとともに、その構成比が世界主要通貨をより代表するものとなりました。

構成比の計算式

各通貨の SDR 構成比を決定するために、通貨を発行する国または通貨同盟の輸出額と金融のコンジット指数のそれぞれに同等の比重を置く新しい計算式が採用されました。

運用上の影響

2016 年 10 月 1 日より人民元は自由利用可能通貨となり、IMF の財務取引で使用できるようになりました。

SDR 金利

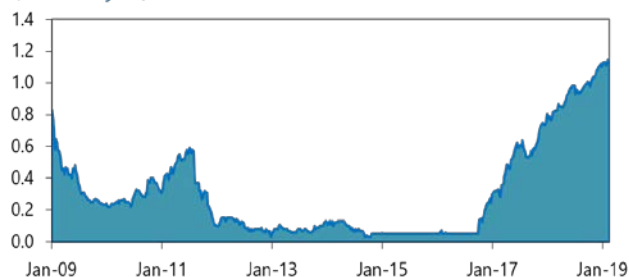
SDR 金利の値

SDR 金利は、SDR バスケット構成通貨のマネーマーケットにおける短期国債の代表金利の加重平均に基づいて毎週見直されますが、下限を 0.05%とします。SDR 金利は IMF ホームページに掲載されています。

SDR 金利は IMF から非譲許的な融資を受けた加盟国が課される金利と、IMF に対して債権を持つ加盟国が受け取る金利を計算する際の土台となります。また、保有する SDR に対して加盟国が受け取る利息、また SDR 配分の際に課される利子にもなります。

Interest Rates on the SDR, 2009-19

(Percent a year)



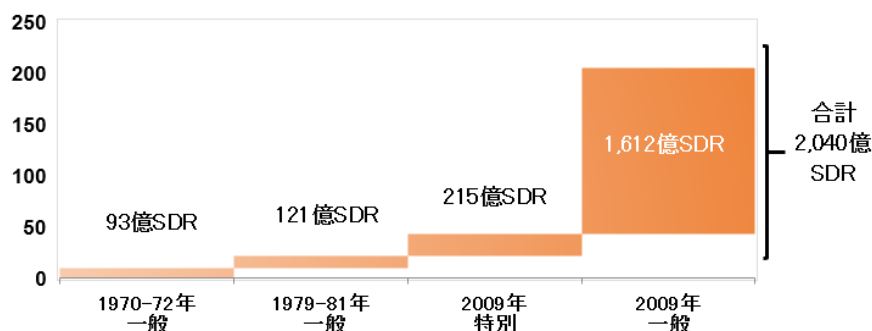
SDR の配分と取引

国際通貨基金協定の下で、一定の条件が満たされた場合には、IMF は SDR 会計に参加している国々に各国のクォータに応じて SDR を配分できます。これは一般配分として知られています。2009 年に行われた一度限りの特別配分によって、IMF に 1981 年以降（つまり、それまでに行われた配分より後）に加盟した国々が公正なかたちで SDR 制度に参加することが可能になりました。SDR は資金を自己調達する仕組みになっており、配分額に手数料を課し、その手数料は保有 SDR に対する利息の支払いに使用されます。

自由参加の市場で参加国は SDR を売買できます。また、必要な場合には、IMF は SDR を購入するよう加盟国を指名できます。

SDR 配分

一般配分と特別配分



この情報は 2019 年 3 月現在のものです。